

やすらぎの家デイサービスセンター 令和5年度事業報告

デイサービス事業 重点目標
『利用者ひとりひとりが自分らしく生活する』

1. 利用者の確保

1日あたり平均8.38名の利用で稼働率69.8%（前年比－3.9%）
週4～5日利用していた方の入院・入所が続き、稼働率も下がった。利用が定着するまでに入所したケースや、体調が崩れての入院も多かった。自己都合で利用中止されたケースが3件あった。平均介護度は2.05（前年度1.95）だった。

2. 事業内容の充実・サービスの質の向上

大きな行事を企画する際には、デイサービスの中で回覧板を作成し、利用者が意見を出しやすいように工夫した。回覧板は馴染みがあり、利用者間でやり取りし、お互いの関係づくりにもなった。気の合う者同士で相談し、意見を出し合い、信頼のおける友人関係ができていた。スタッフは敬老会や誕生日を祝う際、利用者の特徴をメッセージ書きするため、再アセスメントする機会とした。また、在宅での生活様式を意識しながら、日々の生活の中で体を動かすことや過介護にならないよう自分でできることを見守り、入浴加算Ⅱのプランや評価にもつなげるようにした。

ヒヤリハット報告件数は25件（前年度17件）、苦情相談が4件、事故報告なし。

3. 職員の資質向上

介護スタッフの全体研修として、若年性アルツハイマー病の方の実話をもとにした映画を鑑賞し、それぞれが認知症の人の気持ちを考えるきっかけとし、実際のケアを振りかえる機会とした。介護スタッフは前年度に引き続き、個々の目標にそったテーマや、日々のケアの中から問題提起し、それぞれ自己学習を定期的に行った。細かな気づきはケアだけでなく業務の内容においても、ミーティングノートを活用し、お互い情報共有をしながら質の向上を目指した。

4. 連携と情報公開

タブレット端末の通信アプリを利用し、家族や他のサービス、ケアマネジャーとタイムリーに情報共有。また、一人暮らしを支える遠方の家族への様子報告に活用した。日ごろから、その日の写真をすぐに見ることができ家族からも好評を受けている。

運営推進会議は、2回開催。前年度よりデイサービス営業中に行っており、日ごろの雰囲気を見てもらう事ができて、活発な意見交換ができた。

5. 地域との交流を推進

ほほえみ会ボランティアの皆さんには、感染防止対策をしながら、活動を続けて頂いた。運営推進会議には毎回交代で参加して頂き、事業内容を詳しく知ってもらえる機会となっている。